



平鹿庁舎に議会機能の移転を

佐藤 清 春

問 今冬の豪雪の教訓を今後どう活かすか。高齢化が急速に進む中、特定の方々の善意に頼るには限界があり、最も身近な集落や地域に住む人々が、お互いを支えあう仕組みづくりが必要ではないか。

答 雪下ろし支援事業を含め情報提供が十分でなかったとの反省から、緊急告知ラジオの配布をはじめ、市民への情報提供の充実に取り組み。また市民生活を守るためには、行政の力だけでは不十分であり自治会・町内会における一人暮らし高齢者など要援護者の見守りや支援の仕組みづくりについて検討していきたい。

問 本庁機能が集約する横手庁舎周辺に、駐車場は十分確保されているか。また、駐車場問題も含め、横手庁舎での三役不在を解消するため、今後改築予定の平鹿庁舎に、議会機能を移転させることも考えられないか。

答 市民向け駐車場は、現状の駐車スペースを確保し、誘導員を配置して効率的運用に努めたい。また、横手庁舎に三役が不在で、南庁舎で執務

●その他の質問●
○行財政改革について



平鹿庁舎

をとることに不便はないが、将来的には更なる集約化を進め、横手庁舎に三役が入ることを検討したい。

地域局庁舎は、地域の市民が身近に必要な行政サービスを受けられ、地域の活性化に結びつく施設である。議場を移転することは、現時点では考えていない。

問 元気の出る地域づくり事業に限定し、地元業者への発注が可能になれば、地域の産業振興につながる、名実ともにこの事業の目的にかなう。

答 まずは現行の入札制度の中で対応する。23年度以降の事業効果を検証する過程において地域局振興枠予算のあり方について検討していく。



豪雪による果樹被害対策について

堀田 賢 逸

問 果樹被害の認識は。

答 1月の積雪は19.2cmと観測史上最高となった。1月6日と8日の降雪がしまり雪となり被害が増えた。

問 りんごに関して「横手市の位置づけ」は。

答 市の販売額は全県販売額の77%を占め重要な戦略作物と位置づけている。

問 「担い手育成」と樹園地の環境の保全について。

答 県のフロンティア農業研修事業の活用で平成3年から通算45名が担い手となり現在7名が研修中である。

問 産地の再生に農家を公募するなど思い切った方法は考えられないか。

答 担い手農家による土地集積を図り安心して農地を任せられる環境整備を行う。

問 樹園地の環境を守るための農地の跡片付けについて。

答 平成23年度実施予定の粉炭製造と利用に向けて樹園地の被害木を原料に利用できないか検討する。

問 樹園地への消雪剤散布を全園地に実施できないか。

答 初めての無人ヘリで消雪



壊滅的な被害を受けた樹園地

剤散布を実施した。農家の作業軽減のため山手の園地にも実施できるか検討する。

問 カットリンゴ業者を誘致できないか。

答 製造企業(株)アップルファクトリージャパンの誘致の可能性を調査検討する。

問 今後の「流・融雪溝」設置について。

答 取水可能な水源と放流先の条件及び勾配などの条件を充たしている事、緊急性、費用対効果を考え検討する。

問 各施設等の音響設備の保守点検について。

答 大型以外は職員が随時点検をしている。今後は利用状況を見ながら適性に管理する。